

基本の再確認 一次の段階へー

病院長 飯田修平

平成 29 年の第 22 回医療の質向上 (MQI) 活動は「基本の再確認 一次の段階へー」を主題に展開しました。現状を把握し、現状をあるべき姿・ありたい姿との食い違い (問題) を把握し、問題解決の方策を検討し、実践し・評価し、その結果を勘案して日常業務に定着させ、次への発展を期すことです。物事の基本です。本年の方針・目標を再確認して、問題解決サイクル・管理サイクル・PDCA サイクルを回すことを求めました。

今年の 5 大方針は、①現状把握、②文書 (記録) 管理、③業務分析、④解決策選定、⑤改善、です。対応して、5 つの目標を、①情報収集 (P)、②情報管理 (P)、③問題把握 (P)、④対策策定 (P)、⑤対策実施 (D)・結果確認 (C)・標準化 (A)、としました。

世の中では、異口同音に、PDCA を回すといいますが、本当に理解している人は少ないです。PDCA の最初の P が最重要です。P がいい加減であれば、そのあとの DCA をいくら努力しても、適切な結果は得られません。P の最初にするべき事項は、現状把握・現状認識、問題認識です。そのためには、問題は何か、問題の要因・原因が何かを分析する必要があります。その手法の 1 つの特性要因図が有用です。MQI 活動で、22 年間、特性要因図を利用していますが、職員の皆さんの利活用は不十分です。

教育委員会は、MQI と連携して、「基本の再確認 一次の段階へー」を主題に活動し、昨年度に引き続き、問題解決の基本であり、出発点である、問題の抽出手法を「特性要因図」(魚骨図) の演習を通して体得していただきました。

第 22 回発表大会を迎えられたのは、職員、役員、地域住民、関係する多くの方々のご指導、ご協力の賜です。関係各位に感謝申し上げます。

ご来場の皆様には、質疑に参加され、活動の背景にある、医療の諸問題と課題をご一緒にお考えいただければ幸いです。

今後も、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

第 22 回 MQI 活動発表大会をむかえ

MQI 推進委員長 柳川達生

医療の質向上 (MQI) 活動は 22 年目を迎えました。私が推進委員長に拝命され 15 年ほどたちますが、MQI 継続のためにしばしば壁にぶつかってきました。MQI 活動が順調で職員が達成感をえられるためにはいくつものハードルを乗り越える必要があります。容易ではないからです。すなわち現場で問題点をみつけだすこと、その問題点の原因を科学的につきとめなければ対策案はできません。対策案を実行するためには他部署と意見、業務調整をしなければなりません。忙しい日常業務の中、他部署と会合の場をもつことは実際困難を伴います。会合の場を持ったとしても意見調整が大変で、時として部署間の軋轢の元となります。対策が決まり実行するにあたり関連部署に周知が必要です。これらを乗り越えてやっとな成果をえることができます。すなわちその計画、実行力を培うことが MQI の場であり、病院を推進していく原動力となります。

今年度の主題は「基本の再確認一次の段階へー」です。MQI ストーリーに則る改善活動が基本です。最近の活動で強く感じることは計画、実行した内容を正確に記述できていないことでした。活動した実績はあっても、現状把握、原因追求をしっかりと実行せずに対策立案をおこなっていることもしばしばです。当院の職員に限ったことではありませんが、何となく問題だと思えることが本当に問題かどうか確認しないで、閃いた対策を実行に移しがちです。原因とは無関係な対策案をしばしば見ますが、その場合活動自体が無駄になってしまいます。基本である MQI ストーリーに則った活動をこころがけるように促しました。本年度での主題を心に刻み、日常業務にも活かし当院を発展させていきたいと思えます。

今年も多くの医療機関、産業界の方々にもご参加いただき盛大に開催できることを嬉しく、また励みに思います。22 回目の活動には 6 チームが取り組みました。活発な質疑を期待して発表大会が有意義になることを期待しております。最後になりましたが、数多くの方々が練馬総合病院を御支援してくださっております。深く感謝申し上げますとともに引き続きご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。